
少年とアメフト

赤47

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年とアメフト

【Nコード】

N4938B

【作者名】

赤47

【あらすじ】

少年のアメフトを追い求める行動の中から大切なことを学ぶ。

（前書き）

簡潔すぎてしまったかも…

「ハット！」

鎧を身にまとった大男達が一斉にぶつかりだす。頭のキレそうな長身の男は素早くボールを手渡す。受け取った男は、塊の中へ思い切り身を押し込む。

少年はその迫力に圧倒されていた。初めてアメリカンフットボールというスポーツを見た。

少年はそれ以来アメリカンフットボールに熱中した。一生懸命ルールを覚え、放映は眠い目を擦って欠かさず見た。

少年は、友人にアメリカンフットボールの面白さを語っても理解して貰えないのが悔しかった。少年のアメフトの熱は見るだけに留まらず、実際にプレイをしてみたいという欲求になった。

少年の通う学校にはアメフト部が無く、また日本では少年ぐらいの歳の子がアメフトをやるというのが少なかった。

しかし少年は諦めなかった。自分の置かれた環境を嘆いて、アメフトをやるという夢を先延ばしにすることはしなかった。

少年は思った。

「自分の歳ぐらいのチームが無ければ大人に混ざればいい。過去に例がなければ自分が作ればいい。」

もしかしたら歳でダメになるかもしれない、近くにチームが無いかもしれない、沢山お金がかかるかもしれない、それでも少年は諦めなくなかった。ダメでも一度挑戦しないと気が済まなかった。

少年は行動をした。いろいろな手段で近くのチームを探した。一つのチームが見つかった。

一番近いが、隣の市で少年には遠かった。

でも少年はそのチームに見学に行くことにした。まだ親には話してなく、反対されるかもしれないが、少年は見学の約束を取り付けた。案の定親にいい顔をされなかった。アメフトは危険なスポーツ、そういうイメージしか無いのは仕方がない。それでも少年は約束を取り付けた事を盾に見学へ行くことにした。

チームは少年を歓迎してくれた。少年はとても嬉しかった。何度か見学を重ねるうちに、少年はチームに参加する許可を親から貰った。最初の不安は一つずつ解消されていった。部費は安くしてくれたり、防具はOBの人から貰えたり、練習場所までは途中で車で拾ってもらえたり。

少年はすっかりそのチーム、アメフトが好きになった。

少年は確信した。自分のいる環境を嘆くのではなく自ら切り開いていく事、挑戦していく事、決して諦めない事、好きなことを追い続けて行く事、これらはとても大切な事で、これらがあればどんなことでも出来る、どんな困難でも越えていけると。

少年は今もアメリカンフットボールを続けている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4938b/>

少年とアメフト

2010年12月14日17時27分発行